

開発パートナーシップにおける 日本のリーダーシップ

- 日本・UNICEF事業協力を例に考える -

キックオフ: 久木田純
UNICEF事業資金部上席事業資金担当官
日本・東アジア・国際金融機関担当

2002年8月28日

発言の概要

- 開発、パートナーシップ
- リーダーシップ、日本
- 日本・ユニセフ事業協力の背景と展開
- 協力の評価と教訓
- 今後の展開

開発、パートナーシップ

- 共通の価値観
- 価値観にもとづく目標設定
- 目標達成のための戦略
- 戦略にもとづいた計画
- 目標達成のためのパートナーシップ

リーダーシップ、日本

- 共通の価値にもとづいたVisionを示せるか
- 具体的な問題解決方策を示せるか
- 必要なコンセンサスの形成ができるか
- 必要なリソースを動員できるか
- 率先して有効な解決法を実施例証できるか
- パートナーシップの形成と発展ができるか
- 結果を出し、わかりやすく説明できるか

日本・ユニセフ事業協力の 背景と展開

- 日本との協力54年
- 1988年第一回事業協力定期協議
- 1989年合同ミッション、五カ国での協力
- 1993年無償ポリオワクチン調達、
- 1994年日米コモン・アジェンダ、子どもの健康
- 1996年GIIミッション、
- 1997年子どもの健康無償
- 2001年共同学習・評価ミッション

協力の評価と教訓

- 定期的な政策対話とプライオリティー・マッチングが効果的な協力を拡大
- 子どもへの結果がわかりやすい分野に焦点
- 日本のVisibilityの促進が良好で長期の関係へ
- 現場での大使館、JICA、UNICEF、政府の協調と相互作用が促進された。
- 日本の社会開発分野でのプロファイルがたかまった。

今後の展開